ESD道徳　事後研究会　H.27.6.19

確認されたこと

・　道徳における資料の有効性

導入の時に提示されたアホウドリの雛のお腹の中から出てきたプラスチックゴミの写真は、子どもの心に大変衝撃的だった。

＜授業者の思い＞

日本から遠く離れた太平洋の小島「ミッドウェー島」で起きている出来事が、実は日本から出されたゴミと関係があることを知ってもらいたかった。

↓

この効果的な資料が、漂流ゴミの問題に取り組んでいる人達の思いを書くときに、自分事として、気持ちに迫ることが出来た。

・　身近な話題に戻ることの有効性

まとめのところで、身近なゴミ問題を取り上げげた。たった数枚の写真提示であったが、絶大な効果を生みだした。感想では、２９人の子たちが自分が出来ることは何かを考えていた。これは、今後の環境学習に子どもの思いが生きると思う。写真資料も明確で分かりやすく、子どもたちにイメージしやすかった。

検討課題・改善内容

・　指導案について

ESD 道徳とか ESD 総合学習とか ESD がつくと、今年は高め合いの授業をしなければいけないので、大変難しくなる。今回のように、その後に総合学習の授業実践が控えているので、道徳は道徳的心情の高まりをねらって授業をしたかった。

↓

本来の ESD 指導案は、ESD と関連しているという意味だけでよい。今年は、「高め合い」が現職教育のテーマなので、指導案例に盛り込んで提示した。今年は研究授業として、どの学年も最低１回は高め合いの授業公開に臨んでもらいたい。その時は、指導案例を活用してほしい。２回以上研究授業をする場合は、どちらか１回だけでも高め合いの授業公開をしてほしい。

また、ESD 指導案として６つの ESD の構成概念の中から選んでもらうようになっている。ESD らしさを指導案のどこかに出したかったので、このような書き方をしている。今後よいアイデアがあれば改善していきたい。

・　ESDカレンダーの道徳４項目について

①思いやり・親切　②郷土愛　③生命の尊重　④向上心、個性の伸長の４つに限定されると、ESD 道徳がやりずらい。どうにか出来ないか。

↓

①③④については、人権と関連して甚目寺小は以前から設定してある項目である。②は、ESD に取り組み始めて加わった。どれも甚目寺小独自のものなので、大切にしていきたい。今後は、ESD カレンダーの４項目はそのままにして、各学年必要に応じて

価値項目を設定して、授業を行ってほしい。

・ シンキングツールを使い、高め合いの授業をしようとすると時間が足りない。

↓

４５分で短い場合は、６０分、９０分などと弾力的に時間を設定して研究授業を行ってほしい。その時、通常の時間帯を変えないで行いたい。例えば、２時間目研究授業、その後休み時間をきちんととり、３時間目も引き続き研究授業というように設定してほしい。その時、３時間目の途中で終わっても構わない。見学する先生は、都合の良い時間帯で見学してほしい。

・ 高め合いをどのようにしたらよいのか。

・ 道徳（ESD）の授業の高まりには、「ゆさぶり」（認知的不協和）が必要なのではないか。そうしないときれい事で終わることはないだろうか。

・ 漂流ゴミという題材がきっかけとなって、ポイ捨てをしないようにするという行動目標が発見できたことが今回の高め合いの成果だと言える。

・ 同じテーマで２回目を深く話し合うことが高め合いなのではないか。

例えば①資料提示 → ②資料内の登場人物の思い（１回目）

→ **③自分だったら（２回目）** → ④何か出来ることは（ESD）

・ 身近な話題をテーマにすると高め合いがしやすいのではないか。

・ 子どもの意見を拾って、それを高め合いの議論のテーマに昇格させていく。ただし、これは指導案の中に盛り込めないし、（問題解決学習のカルテ式指導案にはそのようなものが研究された）授業は水物であると言われるように、不確実な要素が多い。

・ 問題に取り組む人達の思いを想像するには、資料が少なすぎた。今回は、指導過程の４と５が逆だとよかった。

・ シンキングツールの結果を使って、問題分析をする。その時に、問題となる部分を前もって、各グループから出してもらっていると議論しやすい。星印をつけるとか、シンキングツールの中に、問題となったことを書き出すとか、赤で囲むとか…

・ 発表方法で、○○さんの意見がいいなと思いました。僕も一緒で…というように、誰の意見を受けての自分の意見なのかをしっかり言わせる癖がついていた。

「低学年の話し方名人あいうえお」がしっかり身についている。

・ 自分がやることは難しいが、人が実際に何をやっているのか客観的に考えさせると意見がたくさん出ていることに気づいた。

・ シンキングツールの使い方に児童が慣れておくとやりやすくなる。そうで無い場合は、やり方をスモールステップで説明してから取り組ませる必要がある。今回の実践は、昨年度から熱心に取り組んでいる学年のため、児童にばらつきはあるものの、かなり、自分たちで工夫してイメージマップを作っていた。ばらつきが今後問題となるかもしれない。

・ 「『ポイ捨てを見たら声をかける』本当に出来るの？きれいごとではないか。そんな投げかけから話し合いが高まっていく。

・ 自分たちの決めた行動に対して、その理由付けを考えさせることが高まりの第一段階、そして今後それがどのようになっていくのかといった予見を考えさせると高まりの第二段階になっていくのではないか。